令和５年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立第十中学校
校長　田村　和夫

１　学校教育目標

○　学び合う人
○　思いやる人
○　鍛え合う人

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・地域の小学校との円滑な接続を目指し、９年間を見通した積極的な連携事業を進める学校。 ・学力の向上と生徒一人一人の良さを伸ばす学校。 ・礼節を重んじ、規範意識が高められる学校。 ・保護者や地域との連携した教育活動を推し進める信頼された学校。
○児童・生徒像	・自ら課題を見つけ、自ら考えて積極的に学習する生徒。 ・お互いのよさを認め合い、誰とでも助け合う心の優しい生徒。 ・明るく素直で、健康な生徒。 ・目標へ向かってチャレンジする生徒。
○教師像	・生徒の手本となり自分自身を高め、学ぶ楽しさを教える教師。 ・誠実な心と正義感をもって生徒と向き合い、豊かな心や強さ、温かさを伝える教師。 ・保護者や地域とのかかわりを大切にし、協力を惜しまない教師。

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉
ここ数年来「文武両道」の精神が伝統として引き継がれ、落ち着いた学習環境と自治的活動が根付いている。
生徒は全体的に明るく、人懐こく、真面目に学校生活に取り組んでいる。生徒会を中心に良き伝統づくりのため努力している。
教師は仕事熱心で、主幹教諭を核として組織的に教育活動を展開している。日々、授業改善に取り組み学習面での成果を上げようと努力している。
保護者、地域ともに学校に対する思いが熱く、生徒達の健全育成のため、学校支援に力を注いでくれている。

〈前年度の成果〉
・令和４年度足立区学力調査の通過率は 73.2%（達成目標 70%）で昨年度 71.3%より上昇した。朝学習や補充教室が生徒の学習意欲の向上や基礎学力の定着に結び付いている。小中連携における研究授業、講習会の取り組みを通し、分かりやすい授業の実践、足立スタンダードの定着、言語活動にポイントを置いて指導案検討・研究授業を実施し、学習指導の研究を深めることができた。
・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価１年 94.3%、２年 93.3%、3 年 93.4%、学校全体で 93.6%（+1.6）であった。タブレット等ＩＣＴを活用した授業を実践する教員が増え、よりわかりやすい授業にするための授業改善が行われている。
また AI ドリルの活用などを通して学校全体での学力アップを図られている。

〈前年度の課題〉
・全体として落ち着いた環境の中で学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いものの、一部学習意欲に欠け学力の定着に課題がある生徒がいる。

・不登校傾向の生徒へのきめ細かい指導と保護者・関係機関との連携をさらに推し進め、不登校の改善を図る。
・生徒が主体的にものごとに取り組む姿勢や規範意識の育成、基本的生活習慣、学習習慣をしっかりと身につけさせる。
・落ち着いた学習環境と安全・安心な学校生活を継続して提供するためのシステムの確認と再構築を引き続き実践していく。
・保護者アンケート「教員は生徒との信頼関係を築けるよう努めている」の肯定的評価が 76.7%(-5.3)と前年比 6%ＵＰ 、「本校の教育に満足している」では 1 年 85.2%(+1.2)、2 年 84.7%(+1.7)、3 年 87.9%(-3.1)と 90%を超える頃ができなかった。100%目指してより信頼される学校を目指し組織で取り組む。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	小中連携の推進	○	○	○	○	○
3	「生きる力」の育成と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進	○	○	○	○	○

5　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
区学力調査の数値目標達成 分かる授業の実践 （ICT 機器、AI ドリルの活用）	全体 73% 国 73%(+0.4) 数 77(+0.5) 英 73%(+2.6) 年度末１・２年 全体正答率 60%	自己評価の際に記入		

Ｂ　目標実現に向けた取組み

新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	朝学習	全学年 ５教科 （国数英社理＋読書）	毎日 始業前 10 分	【指導体制】　学年教員 【目的・取り組み内容】 基礎的な学力の向上を図る。 単語・文法力（英）・計算力（数）・漢字の書き取り（国） 【使用教材】AI ドリル、自作教材	各コンテスト	正答率30％未満の生徒を全体の10％以下にする。	自己評価の際に記入
2 継続	放課後補習教室（抽出）	全学年 ３教科 （国数英） 各学年 10 名程度	毎日 放課後 15 分	【指導体制】学年教員 【取り組み内容・ねらい・目的】 個別指導による、基本的な学力の定着。単語・文法力（英）・計算力（数）・漢字の書き取り（国） 【使用教材】AI ドリル、自作教材	区調査再テスト	対象生徒の 80％が正答率を上昇させる。	
3 継続	放課後補充教室	全学年 ３教科 （国数英＋読書）	毎日 放課後 15 分	【指導体制】全教員 【目的・取り組み内容】 英語：長文問題・英作文等、数学：文章題等、国語：読解問題・作文等で応用力を向上させる。 【使用教材】 各教科で用意する教材、AI ドリル	区調査再テスト	区調査復習テストで生徒の 50％が正答率を上昇させる。	
4 継続	サマースクール	全学年 ５教科 （国数英社理） 各学年約 30 名	夏休み 期間中 の７日間 各日 45 分×3	【指導体制】全教員 【目的・取り組み内容】 英、数、国：応用クラスと基礎クラス（基本的な計算や英文の理解等）、その他の教科：当該年度の前半期の内容でつまずいた内容。少人数指導。 【使用教材】 各教科で用意するプリント教材、AI ドリル	事前・事後テストの比較	得点が向上した生徒の割合を95％にする。	

５ 継続	英語表現力向上活動	全学年 英語授業 総合的な学習の時間の発表に英語表現を取り入れる（２，３年）	毎授業10分程度 ９，１０月	【指導体制】英語科・ALT 【目的・取り組み内容】 Native English Speakerとの英会話に慣れさせ、英語で話すことに興味関心を持たせる。 【使用教材】 本校独自教材の会話シート	定期考査内のリスニングテスト 年３回の会話テスト（全学年） ＧＴＥＣ （２年）	正答率50%以上の生徒が85%以上 中級レベル以上の生徒が70%以上 CEFR-J　A1･3以上の生徒が50%以上	自己評価の際に記入
６ 継続	家庭学習の習慣化	全学年 全教科	定期考査前の２週間	【目的・取り組み内容】「学習の記録」を活用し、各生徒に家庭学習への意識を高めさせる。担任が各生徒の家庭学習状況を把握し、学年体制で未提出課題に取り組ませる。徐々に年間通して行えるようにしていく。	定期考査時に課題の提出状況を確認する	全学年、課題の提出率を85%以上にする。	
７ 継続	キャリア教育 東京Global Gateway （TGG）	第２学年 英語	11月頃	【指導体制】英語科＋学年教員 【目的・取り組み内容】 半日の英会話体験 【使用教材】 TGGオリジナル教材	TGGからの評価	中級レベル以上の生徒が80%以上	
８ 新規	読書活動の充実	全学年	朝10分 放課後15分	朝と放課後の時間を利用して全校で読書活動の時間を設ける。（年３回の読書週間を設定） 昼休みの図書館開放	生徒アンケート 図書館年間貸出冊数	月に２冊以上本を読む生徒の割合45%以上(+6.8) 図書館年間貸し出し冊数６５００冊（昨年度２月末５５５１冊）	

重点的な取組事項－２	小中連携の推進

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・連携をとおした教員の指導力の向上。 ・生徒の学力定着に向けた連携の実施。 ・小中連携による中１ギャップ解消。	「指導力の向上」に対する教職員の肯定的な評価と「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を 90%以上にする。	自己評価の際に記入		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○連携をとおした指導力の向上	・「教員同士の連携」に対する教職員の肯定的な評価を９０％以上にする。 ・「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を 90%以上にする。 ・保護者アンケート「教職員は使命感と熱意を持って教育にあたっている」の肯定的な評価を 90%以上にする。	・連携活動をとおして学習指導や生活指導について相互理解を深め、児童・生徒の発達段階を踏まえた効果的な指導について検討する。（主体的な学び・言語活動・足立スタンダードに重点を置く。） ・連携推進担当者同士の連絡会を実施し、具体的な連携の調整を図る。 ・児童・生徒についての情報を共有することでより丁寧な個に応じた指導を実施する。	自己評価の際に記入		

○生徒の学力定着に向けた連携の実施	・「指導力の向上」に対する教職員の肯定的な評価を 90%以上にする。 ・「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を 90%以上にする。 ・保護者アンケート「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」の肯定的な評価を 90%以上にする。	・円滑な接続を図るため接続のポイントを意識した教科連携を実施する。 ・２小学校と１中学校の３校でそれぞれ１回の指導案検討と研究授業（合同研究会)、３校合同研修会を実施し、分かりやすい授業の実施に向けた研究を進める。 ・子どもに対する理解の仕方や学習目標について各校の教員が共有し、児童・生徒の理解や学習目標の一貫性を図る。	自己評価の際に記入
○小中連携による中１ギャップ解消への取り組み	・交流事業に対する教職員の肯定的な評価を９０%以上にする。 ・本校へ入学を希望する生徒数を増やす。	・12 月に２校の小学校６年生に中学校体験、中学校紹介を実施する。 ・土曜授業午後に部活動見学会を実施	

重点的な取組事項－３	「生きる力」の育成と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進			
Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・落ち着いた学習環境の中で「生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力)」の育成 ・あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着と感性を磨く学習環境の整備。 ・「いじめ０」、「不登校０」を目指す	・「基本的な生活習慣の定着、生徒の安定した学習状況、いじめや暴力のない学校づくり」などの項目について、あてはまる、ややあてはまるの合計を８５%以上とし、「本校の教育に満足している」の合計を９０%以上にする。	自己評価の際に記入		
Ｂ 目標実現に向けた取組み				
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

○落ち着いた学習環境と「生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）」の育成	・保護者アンケートの「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」「学校は集団生活の基本的なことをしっかり指導している」「本校の教育に満足している」について、あてはまる・ややあてはまるの合計を９０％以上にする。	・全教育活動を通して、マナー、モラル、ルール遵守の必要性、重要性を説く。 ・各学年、各分掌が一体となり組織的に生活指導に対処していく。 ・学芸発表会、合唱コンクールでの生徒の主体的活動 ・ガイドラインを遵守した部活動運営 ・命の安全教育、性教育 ・昼休みの設定（図書館開放）	自己評価の際に記入
○あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着と感性を磨く学習環境の整備。	・保護者アンケート「生徒の態度や服装はきちんとしている」「生徒はあいさつや言葉遣いなどの礼儀を身につけている」の項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を 90％に近づける。	・学校の教育活動全体、保護者や地域との連携であいさつ運動を展開していく。 ・教室や各階の展示物、掲示物の工夫を行い感性が磨かれる学習環境や生活環境を作っていく。 ・経済同友会から講師を招聘してキャリア教育を実施する。 ・留学生によるゲストティーチャー授業の実施。	
○「いじめ０」と「不登校０」を目指す	・保護者等の外部評価において、「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」という項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を 90％以上にする。	いじめ防止基本方針に基づき、いじめ予防と解消を図る。外部機関と連携しいじめ防止教室を実施する。 ・諸調査を基に、ＳＣ、特別支援教育コーディーネーターを中心に各学年集団、生徒個人の指導の共通理解を図り、指導を深めていく。	

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

（２）保護者や地域へのメッセージ

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

（３）その他（学校教育活動全般について）